

イスラム過激派組織「イスラム国」とは？

公安調査庁 調査第二部

統括調査官 山口 純

2015年1月20日、イスラム過激派組織「イスラム国」(自称の組織名であり「国」ではない)は、シリアで拘束されたとみられる邦人男性2人の殺害を予告する映像声明を発売した。インターネット上に公開された1分40秒の映像は、わが国から8500km以上も離れた地における紛争といえども、我々にとって具体的かつ直接的な脅威に転化し得るという現実を物語っていた。

衝撃的な映像の発出からおおよそ2カ月を経た3月18日、今度は北アフリカの国チュニジアを観光で訪れていた邦人6人が、テロに巻き込まれ死傷するという事件が発生した。ここでも、我々が耳にしたのは「イスラム国」という名の忌まわしい響きである。中東・北アフリカにおける混乱は、我々にとってもはや「他人事」として片付けるには、あまりに身近な脅威となってしまった。

脅威と対峙^{たいじ}するためには、それをもたらす相手のことを知る必要がある。本稿では、“国家”を自称するテロ組織「イスラム国」について、その歴史を振り返りつつ、過激主義の国際的なネットワークにおけるもう1つのブランドである「アルカイダ」^(注1)との比較の観点から、その特徴を明らかにすることを試みた。

注1：アフガニスタンとパキスタンの国境周辺に潜伏しているとされる「アルカイダ指導部」を意味し、「アルカイダ」関連組織については含まない。

「イスラム国」の歴史

「アルカイダ」の支援で原形組織設立

1989年12月、パキスタン北西部の街ペシャワールの空港に降り立った複数のイスラム戦士

(ムジャヒディン)の中に、アフマド・ファディル・ナザル・アル・ハレイレという名の23歳の若者がいた。後に郷里の名にちなんでアブ・ムサブ・アル・ザルカウィと名乗ることになるこの男は、パキスタンの隣国アフガニスタンで展開されているジハード(聖戦)に従事すべく、遠く離れた地ヨルダンからやってきたのである。

アフガニスタンでジハードに従事している間、ザルカウィはアブ・ムハンマド・アル・マクディシというイデオログ(理論家)と出会い、その影響を受けたとされる。ザルカウィが後に示すことになるシーア派に対する異常なまでの敵意は、過激なサラフィー^(注2)主義者であるマクディシの思想に感化されてのことであった。

1993年、ヨルダンに帰国したザルカウィは同国政府の打倒とイスラム国家の樹立を目指して武装闘争の準備に入ったが、治安当局の摘発により収監された。1999年5月に釈放されたザルカウィは再びアフガニスタンに渡航、「アルカイダ」の最高指導者(当時)オサマ・ビン・ラディンと接触、その支援を受けつつ「ジャマート・アル・タウヒード・ワル・ジハード」(JTJ)なる自らの組織を設立した。「イスラム国」の起源となる組織の誕生である。

2003年3月に米国主導の有志連合によるイラクへの軍事作戦が開始された時、ザルカウィは同国北東部・スレイマニヤ県を拠点として活動していたとされる。同年8月、ザルカウィ率いるJTJは、イラク首都バグダッドにおけるヨルダン大使館を標的とした爆弾テロを実行した。これを皮切りに、同地に所在する国連事務所に対する自爆テ